

# 豊かな弥彦村を創る会

討議資料

(小林とよひこ後援会だより)

第14号 平成28年5月18日



## 武田芳久後援会長のあいさつ

皆さまご無沙汰しております。弥彦も漸く花の季節を迎えて賑わいも出て参りました。小林村政も青木副村長をお迎えして4月はじめから実質のスタートです。厳しい財務事情の中難問山積ですが、皆さまとの公約をひとつずつ確実に進めて行くべく、諸施策に具体的な遂行に向けて日々努力をしておりますが、時には苦渋の決断があると思われまふ。応援する我々にとっても、これからが本番です。惑わされず、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 小林豊彦村長のあいさつ

村民の皆様、小林とよひこ後援会、豊かな弥彦村を創る会の会員の皆様、昨年2月の弥彦村長就任以来、沢山の暖かい激励のお言葉、時には厳しいご叱責をいただき本当にありがとうございました。いずれも皆様の弥彦村をよくするためには、村長に間違いのないよう村政を進めてもらわなければならない、とのお気持ちから発せられたお言葉でした。時には背中を押され、時には真剣に反省をさせられました。本当に感謝しております。皆様の厳しいお叱り、ご支援、ご声援があったからこそ、この一年間を乗り切ることができました。ありがとうございました。

今この一年間を振り返りますと、公約で掲げた主な政策のうち、半分は何とか具体化にこぎつけたと思っています。一つは弥彦村の財政の見直しでした。危惧していたように、村の財政は極めて厳しい状況にありました。村民の皆さんには、正直に平成24年度から村は実質単年度収支で赤字になっています。このままでは、村の貯金は、遠からずなくなります。その後は、介護保険、水道料金、下水道料金などすべて村から従来のような補填はできなくなります、と訴えてまいりました。この結果、大部分の村民の皆さんから強いご不満を持ちながら、平成28年度の緊縮予算、財政健全化予算を認めていただきました。皆さん全員の方が何らかの痛みを受けられたにも関わらずです。

一方で、絶対進めなければならない事業もあります。緊縮予算だからといって、新しいことになにも手をつけなければ、村から活気がなくなります。でも、村にはお金がありません。借金も現在の年間予算と同じぐらいあり、これ以上無茶な借金はあとの人にツケを残すことになります。では、どうするか。国から村の事業に、特別交付金を認めてもらうことしかありません。ありがたいことに政府は平成26年度から地方創生事業を立ち上げ、財政的に弱い小規模自治体の支援に乗り出していました。しかし、国の支援を受けられるのは自分たちで真剣に考え、独自の創生計画、具体的には総合計画を作った意欲と汗をかく覚悟のあるところだけ、という条件付きでした。その結果が、この3月国の補正予算で決まった加速度交付金でした。弥彦村はありがたいことに、満額交付金を受けることになりました。主な事業が「おもてなし広場」の整備です。3年計画の事業が、本格的にスタートします。

駅前の観光ホテルの取り壊しに国に申請していた交付金も満額認められました。2億円の取り壊し費用のうち28年度に村の税金で負担するのは約1,200万円です。来春には弥彦駅前は今全く様変わりします。その他、子育て基金も創設させていただきました。

株式会社  
**弥彦村物産**  
TEL (0256) 77-8720

弥彦のみなさん、観光客のみなさんに弥彦・県央地区産の野菜・果物などを中心に販売しております。いつも、ご利用ありがとうございます。お気軽においで下さい。

営業時間 9時～17時まで



## 青木勉副村長 弥彦村の感想

弥彦村は、彌彦神社を始めとした歴史と伝統、整備された農地の広がる農村景観などなど、心安らげる場となるものを持っているところだと思います。着任してひと月ですが、村外に仕事に出かけ、弥彦山を目指して戻ってきて彌彦神社大鳥居が見えると、ホットした気分になります。

村は、地域を守り、農地を守る人がいて維持されています。しかし、その人がだんだん高齢化し減っています。普段の生活をしていくことが中心で、その不都合を実感として捉え考えることは難しいことかと思いますが、大きな問題です。これまで通りの考え方は衰退に向かうということだと思います。10年後、20年後、30年後を見通しながら考えていくことが必要で、いますぐにでも、みんなで思いをひとつに、できることを一歩でも二歩でも進めていくことが大事です。仕事があって、安心して生活し、子供を育てられる環境をつくり出していく、取り組むべき課題は多く、いろいろです。皆様からお話を伺いながら、弥彦村のために、微力ですが力を尽くしていきたいと思ひます。桜の満開の中で気持ちよくスタートを切れたことはとても幸せだったと思ひます。よろしくお願ひいたします。

## 地方創生加速化

### 交付金

市町村	単位千円
長岡市	100,000
十日町市	100,000
小千谷市	90,000
新潟市	80,000
三条市	80,000
柏崎市	80,000
加茂市	80,000
見附市	80,000
妙高市	80,000
上越市	80,000
<b>弥彦村</b>	<b>80,000</b>
南魚沼市	79,945
津南町	76,168
粟島浦村	75,856
佐渡市	72,510
阿賀野市	65,777
燕市	56,741
阿賀町	40,000
村上市	39,200
新発田市	33,114
糸魚川市	30,658
魚沼市	28,800
五泉市	22,685
聖籠町	13,700
出雲崎町	1,400
新潟県計	669,748

## 地方創生人材支援制度

都道府県	派遣市町村	派遣数
北海道	名寄市(財務省) 天塩町(外務省)	2
青森県	三戸町(大学)	1
宮城県	気仙沼市(総務省)	1
山形県	上山市(財務省) 村山市(農林水産省) 長井市(文科省)	3
福島県	相馬市(国交省) 南相馬市(総務省) 伊達市(厚労省)	3
茨城権	牛久市(国交省) 坂東市(国交省) かすみがうら市(経産省)	6
	つくばみらい市(民間) 大洗市(国交省) 境町(民間)	
群馬県	富岡市(民間)	1
千葉県	鴨川市(総務省) 酒々井町(国交省) 栄町(農林水産省)	3
<b>新潟県</b>	<b>弥彦村(農林水産省) 湯沢町(民間)</b>	<b>2</b>
富山県	魚津市(民間) 上市町(民間)	2
福井県	大野市(内閣府)	1
山梨県	北杜市(厚労省)	1
長野県	駒ヶ根市(国交省)	1
滋賀県	湖南市(財務省)	1
京都府	八幡市(民間) 京丹後市(経産省) 南丹市(農林水産省)	5
	木津川市(国交省) 井出町(総務省)	
兵庫県	養父市(金融庁) 神河町(農林水産省)	2
奈良県	五條市(大学) 御所市(民間)	2
和歌山県	有田市(民間) 美浜町(財務省)	2
鳥取県	湯梨浜町(国交省) 日野町(民間)	2
岡山県	高梁市(厚労省) 備前市(文科省) 真庭市(総務省)	3
徳島県	阿南市(国交省)	1
高知県	馬路村(農林水産省) 黒潮町(総務省)	2
福岡県	田川市(経産省) 大川市(経産省) うきは市(国交省)	3
佐賀県	伊万里市(総務省)	1
長崎県	佐々町(大学)	1
熊本県	小国町(総務省) 高森町(経産省)	2
宮城県	小林市(民間) えびの市(民間)	2
鹿児島県	阿久根市(民間) 志布志市(国交省)	2
合計	58市町村(28都道府県) 国家公務員42名、大学3名、民間13名	58



【議会を傍聴して】

「村長の提案した副村長人事は、賛成5反対3で可決された」  
村長より選任するに当たり、全員の賛成で副村長をお迎えして欲しい旨の説明があった。副村長を中央から招請した理由と経緯の説明があった。弥彦村にとって、どういう人材が副村長として必要か考えた時、まず弥彦村が第一にしなければならないことは、財政力の強化である。そのためには国の支援が必要である。故に、1年をかけて副村長を中央から招請をする道を選んだ。しかし、地方創生人材派遣制度を活用しても全国から多くの応募があり、有能な人材を派遣していただくに大きな困難が伴った。しかし県などの支援を受けて実現することができた。その結果、青木氏という農林省出身の有能な願ってもないキャリア官僚をお迎えるすることができた。説明の中で、議員の皆さんに全員賛成をお願いしたいことを再三にわたって求めた。しかし議会では、反対をされた議員が3名でた。その結果に、大きな驚きと失望そして怒りさえも感じた。今後の弥彦村を考えると、一抹どころか大いに不安を感じるものである。村長は説明の中で、もし青木副村長選任に反対をされるならその反対理由を述べて欲しいと、再三にわたりお願いをした。しかし、無記名投票となりその結果、賛成5反対3となった。「質疑がありませんか なし。討論はありませんか なし。武石議長の声がむなしく議場に響いた！」反対するならその理由を説明する責任がある。また人事案権の採決に対しては、起立採決が当然と思う。果たして、3人の反対議員に村民に納得させるだけの理由があるとはとても思えない。  
無記名投票の結果3人の反対者があった。誠に残念なことである。

「みなさんの意見を村政に！」

小林村政が誕生し2年目、本格的なスタートの年です。村政の課題は山積しておりますが、一つ一つ丁寧な説明をしてご理解をいただくことが大切です。下記に、村民の皆様から多くのご意見を掲載させていただきました。ご投稿いただいた内容をそのまま載せることは紙面の都合上できませんでした。まだまだ選挙のしこりが残っていることも実感できました。ただ「批判だけ、古い行政体質」のままでは、弥彦村の将来は展望できません。「論語」に「意なく必なく固なく我なし」とあります。「意」とは、自分の主観だけで判断すること。「必」とは、自分の考えを無理に押し通すこと。「固」とは、一つの判断に固執すること。そして「我」とは、自分の立場や都合だけを考えること。こうした「他を顧みない自分本位の考え」は、取り去りたいものです。弥彦の未来は、村民みなさんの手にかかっています。小林村長と共に汗をかきましょう。未来の子供たちのために！

村議会は誰のためにあるの！

議会での傍聴は、以前よりは多いと聞きます。議会報、新聞だけでは村議の人柄までよくわかりません。議会での質問の仕方、内容、態度など実際に見ることで、村議の見識をより一層高めます。また傍聴人が大勢ならば、村議も質問内容をよく考え「しっかりと村民のために働かなければ」と考えます。多くの方々の議会傍聴は議会活動を活発にし、弥彦村の活力となり村の発展につながると信じます。

観光の活性化にみんなで汗を！

お客を最初にお連れするなら「弥彦神社」と多くの方々から聞きます。お参りを終えた後は、何かあるの？と言われてからどのくらいの年月が過ぎたのだろうか。今年は、駅前整備とおもてなし広場が動き出す。観光に関わる一人として注目をしている。いまさら産直？と言う声も聞こえてくる。話し合いを重ね、みんなのおもてなし広場ができることを願っている。新しいことが始まると、期待や楽しみ、不安いろいろな空気が動き出す。その空気が多くの方々に伝わりよい刺激をもたらして欲しいと願う――。観光客は土地のもの、それを使った手造りのお土産を望んでいる。もう一点、弥彦で店を出したいと考えている人のために、村民、村、観光協会、商工会が一体でサポート体制をつくることができれば良いと思う。窓口を一つ確立しておくことで、新しい試みが動き出す機会も出てくる。

明るい農業に向けて

厳しい農業経営が続くなか弥彦村では、まだまだ10反(1反)耕地も多くあり早急な圃場整備が望まれる。これから農業経営は、土地利用型の複合経営へと向かわざるをえない。現在の「えだ豆」栽培では農作業が夜中からとなり継続は難しいのではないかと。第2の「えだ豆」など新たな開拓が必要だ。また稲作の緊急課題として籾殻の処分がある。現在は畜産農家から利用してもらって、なんとかやっているのが現状である。

あの時の歓声を忘れずに！

省みれば、当確あの時の歓声、感動は忘れることはできません。大勢の支持、支援をいただいたからこそこの地位につけたこと忘れず。村民のみなさん一人ひとりに寄り添い、みなさんからエールをもらえたら最高かなと思います。あいさつは、心のコミュニケーションでもあります。小学生、中学生にばかり挨拶運動を強いるのではなく、大人が見本にならなくてはなりません。高齢者は、人生の大先輩です。戦前、多くの方々は生活が貧しく苦しいなかを懸命に生きてこられました。しかし、その分大きな夢をいっぱい見ることができたとある人生の大先輩が言っていました。村長の掲げる明るく豊かな村づくりは、厳しい財政状況のなか多難で容易ではないと思います。今後も、支持して下さった方々の考え、声にしっかり耳を傾けて明るい豊かな村づくりを願うものです。

村民目線に一步近づいた

この頃うれしかったこと。役場に電話をする用があり恐る恐るかけてみましたが、とても手際よく明るく対応をしてもらいました。変わりましたね。駅前のホテルが壊されることは、とても良かったです。どんな風になるのか早く知りたいです。地元の新鮮な野菜、作った方の顔が見える野菜を買うことができとてもうれしいです。直売所は今年2年目、ますますいいものが並ぶ事を期待しています。吉田～弥彦間の県道は、とても傷んでいます。緑も少なくとても寂しい通りではないでしょうか。街路樹や草花の手入れなど、いつでもお手伝いします。

子育て支援はどうなったの？

近隣の市町村からくべて保育料が高いので、その軽減を図るため、保育料徴収区分を8階層から11階層に改めました。毎日安心してあずけられる保育園は、親にとっても子供にとってもとても大切な場所です。毎朝「おはようございます」「行ってらっしゃい」と大きな声で先生方は、送り出してくれます。この安心感、信頼感は、保育士のみなさんの不断の努力と村との連携があるからできることです。よりきめ細かい保育には人員の増員も必要ですが、ひかり保育園に男性の保育士さんが入り新鮮な風が吹き始めました。

また 若い男性からは

バイオマス発電の可能性は、副村長は矢作からでは、商工会の会長選挙について、談合問題の現状は、補助金のカット、財政難なのになぜ職員の増員をしたのか、相撲プロジェクトなどの神社との関係への疑問がありました。→これからは全て村議会で答弁しており、また各集落での村政懇談会で説明をされているものでした。

高齢者から一言

高齢者に優しいとはどのような仕組みをいうのか。医療の充実、施設の充実も優しさのうちである。身近に感じる優しさとは、安心して暮らせることである。昔は、向こう三軒両隣は身内のようなものであった。味噌が無ければ借りに行き、心が通い合う時代のように思えた。高齢者が、急に具合が悪くなったらどこへ連絡をしたら良いか。誰に頼めば良いかわからないのが現実と思われる。安心して暮らせる村作りは、人と人とのつながりをつくる事が大切である。各集落センターを活用し、高齢者の立ち寄りの場として少しでも安心して暮らせる村づくりができないか。

身近に感じるこことってナーニ！

\* 弥彦村魅力が欲しい40代女 \* ぶどう山に野球場を作って30代男 \* ぶどう山を宅地開発したら40代男 \* 弥彦のホテルの質を改善して40代女 \* 粗大ゴミの収集を簡素化して40代女 \* 街路灯を増やして30代男 \* 村長は近寄りたいたいニコニコして30代女 \* 働く場を増やして20代女 \* 子供のための予算を削るのは間違いです30代女 \* 観光ホテルの活用は！50代男 \* バイオマス発電はどうなりましたか20代男 \* ノーサイドではないような気がします村長から寄り添うべきです30代女 \* 弥彦村のイベントをもっと増やして(婚活イベントなど)20代男 \* 若い人のための弥彦を作って \* 彌彦神社のことをもっと知りたい勉強会はないのですか20代女 \* 村長さん体力大丈夫ですか20代男 \* 村長はもっとカリスマ性が欲しい20代女 \* 弥彦村大好きです！もっと頑張ってください10代女

村政懇談会の継続を

村長は公約通り各集落を3回計56回もの懇談会を実施する。これはなかなかできない。任期中は続けていっていただきたい。「概ね50歳以下の人」を対象としたものは平均4人ということで、これは「どなたでも」と一緒にしてよいのではないかと。年齢層も重なる、JAや商工会等の青年部との懇談の機会を持った方がよいのではないかと。区長会、各区長に積極的に協力してもらうことが必要である。案内を出すのみで「来ても来ないでもかまわない」ということではせっかくやるのにもったいない。